

ヒロシマを次世代に伝えたい ヒロシマピースボランティア

平和学習や憩いの場として、多くの人が訪れる広島平和記念公園。園内に点在する慰霊碑と、広島平和記念資料館の解説を行っているのが、ヒロシマピース ボランティアの皆さんです。平成10年（1998年）、被爆体験の継承事業の一環として、一般市民への募集が始まり、平成17年（2005年）4

ボランティアの田中万里子さん



小学生にガイドする岡本敏行さん



1階中央部にある2つのパノラマ。
「見比べることで、原爆の威力を
実感してほしい」と埴田さん



としてキャリアを重ねるに連れ、さまざまな来館者の思いにも気が付くようになりました。つらい戦争を体験された人が足を運ばれている場合など、その人が何を求めているのかという見極めと心配りも重要です。また、戦争を知らない来館者には、「なぜ広島に原爆が投下されたのか、その理由と経緯をしっかりと見て欲しい」、と話されます。

開館から50年を迎えた平和記念資料館では現在、耐震性の強化や、よりニーズに応えるための展示方法を巡って検討が続いています。インターネットの普及に連れて、ホームページも国内外にヒロシマを発信する重要な手段の1つになってきました。昭和20年（1945年）8月6日のヒロシマを、次の世代に伝える大きな役割を担う平和記念資料館。幅広い年齢層で活動するヒロシマピース ボランティアの間でも、被爆体験を持つボランティアの思いを若い世代がしっかりと受け継いで、来館者の皆さんへと伝えていきます。



原爆の投下目標となった相生橋の説明をする埴田ひろ美さん

月1日現在、20代の若者から戦争体験を持つ世代まで、総勢168人が活動中。きめ細かな解説や質問への回答といった双方向のやりとりは、とても分かりやすいと来館者からも好評を得ています。

募集は毎年7月中旬から8月中旬にかけて、『ひろしま市民と市政』を通じて行われます。10月から3月にかけて行われる事前研修では、広島近代史をはじめ、放射線や核兵器に関する最新情報といった、専門的な講習がテーマ別に組まれています。ペタランのボランティアの中には研修生に交じって、スキルアップのため自主的に参加さ

れる人もいます。計10回にわたる研修が修了すると、先輩ボランティアの指導の下で活動が始まります。来館者の目につきやすいユニフォームは、ヒロシマピース ボランティアのシンボルになっています。

5年のキャリアを持つ埴田ひろ美さんは、月に2回のペースで活動に参加しています。派遣教員としてベネズエラで過ごした3年間で、現在の活動の原点となりました。ヒロシマの惨状がほとんど伝わっていない南米の地で、「原爆について知ってもらいたい」と強く感じた埴田さんは、原爆に関する絵本や英訳本を多数買い揃えて現地に持参。小さな子どもから大人まで、その被害を伝える上で大いに役立ったそうです。

帰国後、ヒロシマピースボランティア



売店では原爆に関する英訳本も多数並べられています

「らしっく」の誌面づくりに、
私たち市民ライターが参加しています！

世代や職業ジャンルを超え、生涯学習やボランティア・市民活動に取り組んでいる個人やグループを支え、応援するさまざまな事業を総合的に展開している「まちづくり市民交流プラザ」。

本誌「らしっく」の発行もその一つ。年3回発行され、今年度は公募で選考された私たち市民ライターが、各コーナーを担当しています。

市民ライターとはいえ初めての人も多く、編集には専門家のアドバイスを受けながら、企画立案・取材などに取り組んでいます。

暮らすことが楽しくなり、人との出会いがうれしくなる。これからも市民の目線で、新鮮な意見を交わしながら、より多くの方々の声を「伝える」楽しい誌面を作りたいと思います。



取材中の一コマ。お話を伺いながら熱心にメモを取ります



会議を通して原稿を完成させていきます



西館通路から見える原爆ドーム



職員の浜岡克宣さん（左）、落葉裕信さん（中央）、小松崎拓技さん（右）

Information
広島平和記念資料館
☎082-242-7828



世代を越えた伝統の継承

は復活を遂げます。当時の町内会が全面的に協力し、かつての神楽を取り戻すための活動が始まりました。まずは消え去っていた神楽を住民同士の触れ合いの場にしようと、子どもころに神楽を舞ったことのある人に指導をお願いしました。続いて、長年保存されていた衣装や道具を修理。高価な「関の舞」の衣装も、町内会の寄付によって購入することができました。

平成13年（2001年）には、さらに多くの参加者を増やそうと「三城田神楽保存会」を結成。里神楽のみならず、石見神楽などの「新舞」も取り入れた練習をスタートさせました。現在では老人ホームへの慰問や岡崎神社祭りに隔年で開催するなど、地域に根ざした活動を展開しています。

「重い衣装や面をつけて長時間舞うとかかなりの運動量になりますから、神楽は子どもの体力づくりに最適な習い事だと思っています。年齢を重ねた指導者と舞う若者が触れ合える点も、ご近所づきあいの少ない昨今では貴重なことではないでしょうか」と谷口さん

神楽の魅力若者に伝えたい
谷口さんが最も懸念しているのは、後継者の不足です。三城田地区でも少子化は深刻で、数年前には10人以上参加していた子どもたちが、現在では5人になってしまいました。塾や受験勉強などで忙しい現代の子どもにとっても、神楽の練習を長く続けていくことは難しくなっています。発表の場では、裏方を務める谷口さんら指導者が仕事をいくつもかけ持ちし、お囃子や照明などの華やかな演出を支えている状態だとか。



りりしい舞姿

語ります。地域に長く伝えられてきた文化を引き継ぐことは、地域の歴史を知り住民同士の絆を深めることにもなるそうです。

神楽が好きでたまらないため、小学校3年生という低年齢ながら練習に参加している子どももいます。「神楽

を通して多くのことを学んだ子どもたちが、未来の三城田地区を守り盛り立てていくくれるはず」と、谷口さんはこうした若者たちの成長を信じて、今日も神楽の指導に励んでいます。

参考文献：「芸北神楽と秋祭」（新藤久人 著）



岡崎神社



周囲は自然にあふれています

Information

●参加者・公演依頼募集●

三城田神楽保存会では、「三城田神楽団」への参加者を募集しています。性別・住んでいる地区は問いません。高校生以上で神楽に興味のある方は、ふるってご応募ください。また、公演依頼も受け付けています。問合せ ☎082-848-0242（沼田公民館）

広島の神楽じゃけえ

広島神楽とは

広島県内には、多くの神楽団があり、地域によって特徴があります。県北では、ヤマタノオロチで知られる「石見神楽」の影響を受けていますが、三城田神楽団のある広島市周辺では、十二神祇といわれる演目が多く演じられています。

神楽と花火

神楽において使われた花火の演出は、次のようなものがありました。

- ①鬼が手に持った竹筒から、火花が激しく飛び出し、半円を描いて消える。
- ②その竹筒をT字棒の横木部分の左右に付け、火を付け回すと直径3mにもなる火の車に見える。

地区それぞれの神楽団が、材料を調達して秘伝の調合で作製していましたが、火薬の取締りが厳しくなりその伝統は途切れたと言われています。

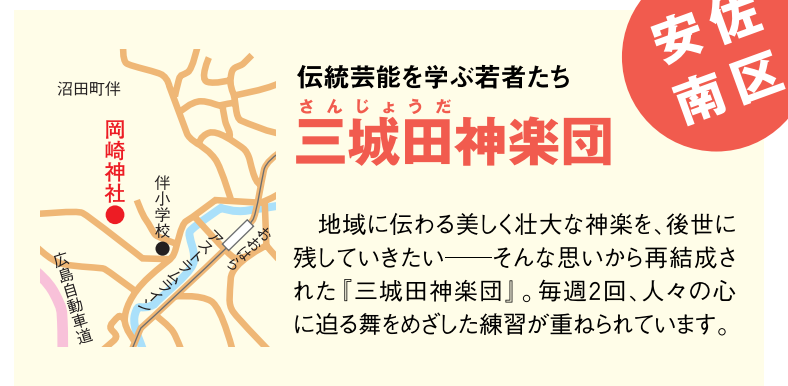


熱気を帯びた練習風景



三城田神楽の歴史

平成6年（1994年）にアストラムラインが、そして平成13年（2001年）に西風新都線が開通し、マンションや住宅団地が急激に増えた安佐南区二帯。しかし、まだ宅地化の波がそれほど押し寄せていない三城田地区は、広島市内では珍しく昔ながらの風景が残る地域です。懐かしい面影を残すこの地区で



伝統芸能を学ぶ若者たち さんじょうだ 三城田神楽団

地域に伝わる美しく壮大な神楽を、後世に残していきたい——そんな思いから再結成された『三城田神楽団』。毎週2回、人々の心に迫る舞をめざした練習を重ねられています。



心に染みわたる指導の言葉

昭和初期のころまでは、数多くの地域住民が神楽に参加していました。しかし、花火や吹き火に対する規制が厳しくなっ

受け継がれてきたのが、豊作祈願を由来とする「三城田神楽」です。三城田神楽団は、今から約150年前の江戸時代後期・嘉永年間に、地元の若者たちによって結成されたと伝えられています。以降、スリード感あふれる雄大な舞が特長の「里神楽」が伝承されてきました。今回お話を伺ったのは、『三城田神楽保存会』の代表を務める谷口幸彦さんです。谷口さんが幼い頃の三城田神楽は、現在行われているものとは全く違っていました。自家製の花火や吹き火を用いた非常にきらびやかな娯楽だったといえます。「子ども心にも、スリルと興奮を覚えたものです」と谷口さん。神楽は単なる宗教的儀式ではなく、住民みんなが心待ちにする楽しいイベントだったのです。



谷口幸彦さん

三城田神楽復活

昭和53年（1978年）10月。「家族みんなが楽しんでいた神楽を、今の時代に復活させたい」という地域住民の声をきっかけて、三城田神楽

ある時は厳かに、そしてある時は情熱的に舞う心がけられています。素朴な民謡が魅力の三城田神楽を、とても誇りに思っています！



新見祥さん（高校2年生）



衣装の取り扱いも丁寧に行います



みんなでよく考えよう



かんおん
まちづくりの拠点 **観音公民館(西区)**
観音公民館は平成14年(2002年)10月2日、改築され新しく生まれ変わりました。小学校に隣接し、豊かな自然を背景に持つすばらしい立地条件を活用し、新たなまちづくりの拠点としての活動に取り組んでいます。

カンオンの森活用塾 カンオンの森で遊ぼう！ 食べよう！

観音小学校の敷地内の森は、つい5年ほど前まで管理が行き届いていませんでしたが、公民館が完成した時、建築廃材と一緒に放置されていたごみを片付けたことがきっかけとなり「カンオンの森」へと生まれ変わりました。広島市の中心部にある学校で、これほど緑が多く残っているのはこの場所だけ。この環境をまちづくりに活用できないかと、「民・官・学」が帯となり「カンオンの森活用塾」がスタートしました。地域住民の手で憩いの森にすることにより、民間・官公庁・学校の連帯感が高まり、今後の市民主導のまちづくりに役立てようと頑張っています。

9月8日(木)の放課後、観音小学校の児童を対象に「カンオンの森で宝探し&月見団子づくり」が開催されました。これは社会教育主事の資格



ゲームの説明をする植木さん

を取得するため公民館に実習に来ていた、修道大学3年生の植木一博さんのアイデアによるものです。自分が子どもころに体験した、自然の中での宝探しや鬼ごっこをイメージして企画したそうです。「カンオンの森には41種類の木がありますが、木の名前や種類を知っている子どもはあまりいません。木の名前をイメージするようなクイズを出し、その問題につけられた点数を競うことによって、ゲーム感覚でカンオンの森について知ってほしいです」と植木さん。公民館・母親クラブ・観音児童館の共催で行われたこのイベントには、当初の予定を大幅に上回る78人が参加しました。1チーム4〜5人に分かれた子どもたちは、学年を越えて協力し、森の中を走り回っていました。



月見団子を食べました！

わがまち スケッチ紀行



講義に耳を傾ける参加者

それぞれの地域にしかない魅力は、気付かない場所に眠っていることがあります。公民館では『地域のすばらしさを再発見しよう』を合言葉に、「わがまちスケッチ紀行講座」をスタートさせました。初日の9月15日(木)、画家の山口紀行さんを講師に招き、まずはスケッチの視点について学習。20人あまりの参加者は、メモを取りながら真剣に受講しました。「趣味で油絵をやっていたけれど、水彩画は自信がありません。自分なりの作品が残せればいいなあと思って参加してみました」という意気込みも…。

遠近法 ポイントのつかみ方・省略の仕方といったスケッチの基本を学んだ後は、スケッチする場所を選ぶために町に出ました。古い家並み、旧小学校正門、昔ながらのお店の店先など、「ここはどうだろ

う?」「このあたりもステキ!」と意見を出し合いながら、気に入った風景をデジタルカメラに収めていました。中には「観音の町で生まれ育ったが、風景はどんどん変わっていく。今のうちに古い面影を残しておきたい」と熱い思いを語る人も。スケッチを通して観音を好きになり、その感動や思いを他の人にも伝えていきたいという考えから、できあがった作品は公民館のラウンジに展示されました。地域の魅力がつまったスケッチに小学生がメッセージを書き込み、絵葉書にして地域のお年寄りに届けるという、「地域のふれあいの和と輪をひろげる」ためにも一役買っています。何気ない風景も、意識してみると新たな発見につながることもあります。地域の魅力を地域住民が知ることは、住民主体のまちづくりに欠かさないポイントとなります。

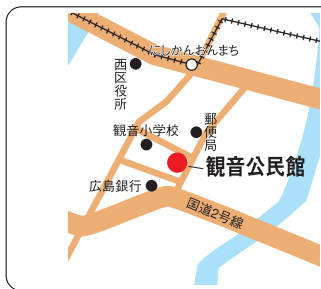


題材を求めてさあ町へ！

山口さんのスケッチ。これをお手本にしました



Information
観音公民館
広島市西区観音本町2-1-77
TEL&FAX:082-233-2603
kanon-k@hitomachi.city.hiroshima.jp



ひろしまの会社のおもしろPレポート

レポートの“P”は、Philanthropy（フィランソ
ロピー・企業などが地域活動に参加すること）、
Peace（ピース・広島のアイデンティティーとし
ての平和）、Public（パブリック・公共に開かれ
ている）などの“P”をイメージしています。



「ハートフルオアシスプロジェクト」への支援活動として、一部売り上げを寄付するための自動販売機の設置や、清掃活動への参加を始めました

あなたの知らないところで、社会貢献活動を行っている広島企業の
はたくさんあります。このコーナーでは、そんな企業の取り組みをご
紹介します。さて、今回はどんな企業が登場するのでしょうか？

社員一人ひとりが積極的に取り組む 中国電力株式会社

CSR推進部門の設置と 地域貢献

日ごろ誰もが生活の中でお世話にな
っている電力。それを供給している
中国電力株式会社では、地域のすべ
ての人がお客さまという思いから、
地域の発展に貢献すべく、さまざまな
社会貢献活動に取り組んでいます。
その活動の推進を行っているのが「C
SR推進部門」。「CSR」とは、Cor
porate Social Responsibility（＝企業
の社会的責任）の
略で、中国電力の
社会貢献事業の中
心的部門と言えま
す。

電力会社として、
環境保全やエネ
ルギーの再利用など
大きな取り組みに
関しては以前から
行われていましたが、
「環境保全」「社会
福祉」「教育」に重



自分たちの町は自分たちの手できれいに。
社屋を中心とした小町周辺のゴミを拾っています

点を置いた社員参
加型の活動が本
格的になったのは、
平成13年（200
1年）から。「社員
の一人ひとりが活動に取り組む、地域
のお客さまへの感謝の気持ちを表そう」
との思いから始まりました。



ホテルが建ち並び“広島顔”とも言うべき
平和大通りだからこそ、いつもきれいに…

「広島市里親制度」への参加 と社員の汗

環境保全活動
では、会社周辺を
含む道路や河川
の清掃、森林保全
のための植栽登山
や草刈りなど、多
くの社員が活動
に参加しています。
中でも、昨年から
取り組みはじめ
た「広島市里親
制度（アダプトプ
ログラム）」では、



小学校などへの「出前授業」。社員それぞ
れの知識や技能を生かした、社会貢献です



原子力土木担当の一瀬泰啓さん。科学
の不思議な力を利用した実験に、子ども
たちの好奇心はくぎ付けです



木や土などに触れ合うことで、
自然の大切さを学んでいます

とに分別もします。ゴミの種類が多い
のは、ペットボトルとタバコだそう
です。「空き缶とかペットボトルは人目につ
くところよりも、植え込みの影なんか
に捨てることが多いですね」とお
つしやるCSR企画担当の森勝幸さん。
こんなところにも人間の心理が働いて
いるとは…。

ほんの数十分で各自のゴミ袋が一杯
になってしまいました。中には蛍光管
を拾った社員の方も。終了時間にな
ると、各班満杯状態のゴミ袋を持ちよ
って分別していきます。一度に集まる
ゴミの量は、約5袋分。休日明けや台風
一過の後は倍の量になることもあるそ
う。ホテルが立ち並び、ビジネスマンや
観光客など、県外や海外から訪れる
人も多いこのエリア。平和大通り周辺
を訪れる人に「きれいな町だな」と思
ってもらえるよう、里親制度の清掃活
動は続いていきます。

地域や団体との交流が楽しい

里親制度に続いて、中国電力が新
たに始めた地域活動があります。そ
れが「ハートフルオアシスプロジェクト」
への参加。これは、障害者や高齢者の
就労などの支援に「役買おうというも
ので、会社内に設置したプロジェクト仕
様の自動販売機の売り上げの一部を
活動支援に寄付するものです。寄付
金は、小規模作業所やボランティア団

人材の宝庫だからこそできる 社会貢献

中国電力には、さまざまな技術や
ノウハウを持った人たちもいます。これ
を生かさない手はないと、社内では「エ
ネルギーボランティア人材バンク」とい
う人材登録を行っています。中国電力
が行ってきたさまざまな地域活動によ
って、社員一人ひとりに根付いた社会貢
献の心を、このシステムを利用するこ

Information

中国電力株式会社
所在地 広島市中区小町4-33
☎241-0211（代）
代表者 白倉 茂生 氏
（取締役社長）
従業員数 10,798人
事業内容 電気事業
設 立 昭和26年（1951年）
5月1日

本社各部署の社員が順番に平
和大通り周辺地域の清掃活動
を行っており、毎週火曜日には始
業前・部署によっては終業後の
約1時間、各自がゴミ袋を手
道路や緑地帯のゴミを拾って回ります。
「広島市里親制度（アダプトプロ
グラム）」とは、自分たちの身近な生活
区間である公共の場所を里親にな
たつもりできれいにしていこうという
コンセプトに基づいて、広島市が企業
などと呼びかけ美化・清掃活動を行
っていくという制度です。ゴミ袋や手袋、
火鉢といった備品などを市から援助
してもらい、小町周辺を週1回、約20
人の社員が4班に分かれてゴミ拾い
を行います。昨年5月から始まったこ
の活動は、約1年間で38回実施され、延
べ861人が参加しました。夏の暑い
盛りにも、社員一人ひとりが汗だく
になりながら、道路脇や歩道、緑地帯
の植え込みなどをつひとつ確認しな
がらゴミを拾っていきます。可燃ゴミ、不
燃ゴミ、資源ゴミというように種類ご

とでさらに生かしていこうというもの
です。希望する社員の専門知識・技術・
特技・資格などを分類し登録します。
要請があれば事務局が登録者（社員）
と利用団体との調整・紹介をし、お互
いに詳細を打ち合わせした後にボラン
ティア活動を行います。
この活動には、専門の知識や技術な
どを持つ社員が、助言や指導を
する「専門ボランティア」と、さまざま
な分野に興味のある社員が、地域の
支援活動などのお手伝いを行う「な
んでもボランティア」があります。この
システムは公民館や公共施設などに
設置してあるパンフレットや、中国電
力のホームページで問い合わせること
ができます。

◆ ◆ ◆
電力会社だからこそ、地域の人た
ちの役に立ちたいというのが企業理
念であり、社会貢献活動によって地域
と密着した企業経営が行われている
のかもしれない。